■富貴寺本堂について

・富貴寺本堂は江戸時代中期(1715年)に建てられたと考えられています(※現在までに何度も増改築あり)。

・本堂は、国指定史跡「富貴寺境内」を構成する重要な要素の一つです。

・本堂が建てられてから約300年。建物全体の傷みや歪(ゆが)みが進んでいました。

平成30年度～令和８年度大規模な保存修理工事を行っています。

工事着手前の本堂(平成31年頃)

■文化財建造物の保存修理について

・どんな建物でも適切な手入れを行わなければ、傷みが進んで…やがて朽(く)ち果てて失われてしまいます。

・本堂は建てられてから約300年、国宝の大堂は約800年もの間…様々な人たちが何世代にもわたる維持・保存のための努力をして建物が残ってきたという「奇跡」。

・しっかりとした修理を行うことで、木造建築はいつまでも残り続けることができるのです！

【文化財建造物の修理の間隔】
〇雨風などで最も傷みやすい《屋根》…約50～60年ごと
〇建物の主要な構造《柱・梁など》…100～数百年に一度
→骨組みを完全に組みなおす「解体修理」
…を繰り返します。

■本堂保存修理工事のながれ

①工事着手～素屋根の設置(平成31年3～4月)

【Point】
〇作業用の足場を組んで、「素屋根(すやね)」をかけて
雨風から工事中の本堂を守ります。

■本堂保存修理工事のながれ

②分解工事(平成31年3月～令和元年10月頃)

【Point】
〇屋根から順に調査しながら、丁寧に分解していきます。取り外した部材は「保存小屋」に保管。

■本堂保存修理工事のながれ

③部材の補修・新材加工工事(令和2年2月～令和6年3月頃)

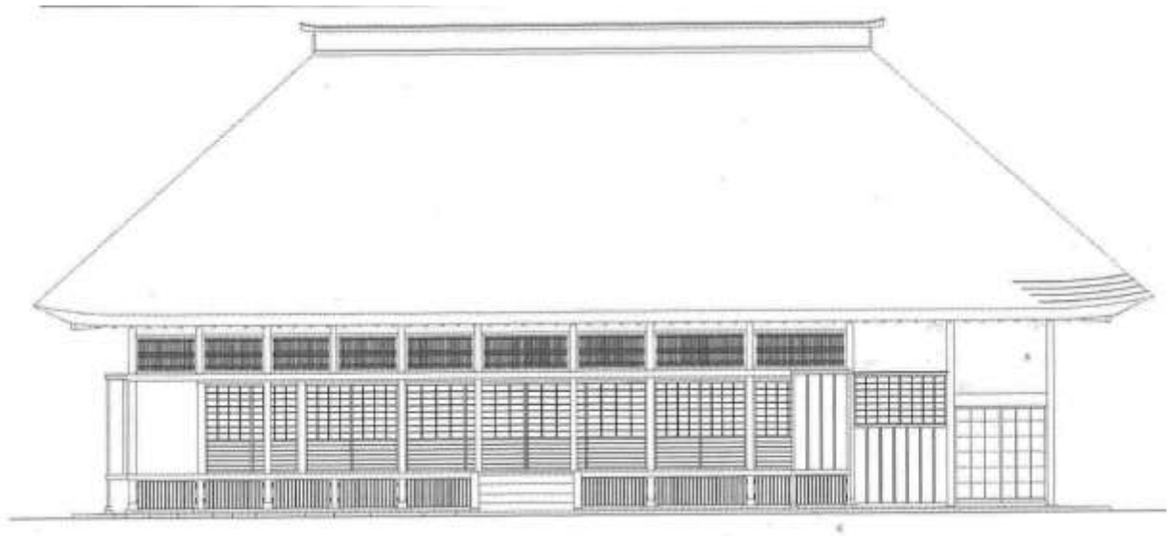
【Point】

〇古い材料は出来るだけ生かし、傷んだ部分を新材で継ぎます。新材は古いものと同じ材種・品位のものを使います(本堂の柱は「スギ」、梁材は「マツ」など)。

■本堂保存修理工事のながれ

④組立工事(令和6年2月～現在)

現在の本堂の屋根は「瓦ぶき」でしたが、かつては「茅(かや)ぶき」でした。今回の工事では「茅ぶき形」の屋根に復元し、表面を銅板で覆(おお)う予定です。



完成復元図

【Point】
〇現在の工事の進み具合では…
《令和8年度(2026年)末》に完成する予定です。